

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般社団法人アーツシード京都		
所在地	京都府京都市	設立年	2017年1月23日
運営主体	一般社団法人アーツシード京都／京都市東九条地域		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・THEATRE E9 KYOTOに関わる芸術家による多様な芸術体験機会の提供 ・近隣中学校との連携のきっかけづくり ・子ども達の「生きる力」の育成に繋がるプログラムづくり(特に「自分の思いや考えを話す力」)。またそれらに意識を持って取り組める講師やスタッフの関係づくり。 		
きっかけ	<p>THEATRE E9 KYOTO(申請団体が運営する小劇場)と、その最寄りの公立学校である京都市立凌風小中学校(以下、凌風学園)は、2020年度に映画制作のワークショップを校内で実施したことをきっかけに、芸術を活用したアート教育実践の実施検討、またそれらに関する教育的議論や、連携に関する対話を進めてきた。学校が抱える様々な課題解決に向けたアート(表現)活動や、劇場が子どもたちにとって身近になるための活動など、双方にとって有益な連携について模索してきた経緯がある。その最中、部活動の地域移行に関する本事業を知り、凌風学園としても取り組みたい課題であるとのことで、申請に至った。</p>		
団体・組織等の連携	<ul style="list-style-type: none"> ●コア連携校:京都市立凌風小中学校 参加者募集、指導内容への指導助言や地域部活動運営にまつわる意見交換(副校長や教員による運営検討会議への参加や活動視察)等 ●協力:京都市立九条中学校、京都市立下京中学校、京都市立東山泉小中学校 ●協力:同志社中学校 学校webページへの公演情報の掲載 ●協力:東山青少年活動センター 中学生を対象とした演劇創作事業の運営に関するアドバイス ●広報協力:京都市地域・多文化交流ネットワークサロン、NPO法人happiness(ハピネス子ども食堂) チラシ配布や子どもへの呼びかけの機会提供等 		
活動場所	<ul style="list-style-type: none"> ・THEATRE E9 KYOTO(申請団体が運営する小劇場) ・studio seed box(申請団体が運営するスタジオ) 		
活動概要	<p>小劇場及び稽古スタジオの運営。年間およそ40作品 その内主催事業8本程度。年間およそ1万人程度の来館</p>		

○本事業による成果

●目標達成度について

- ・会員生徒数:5名(内中学生4名)／目標数15~20名。
- ・E9地域文化クラブ応援チケット売上:24,000円(5,000円×3枚、3,000円×3枚)／目標額の10万円以上
- ・近隣中学校からの公演来場者数:合計7名／目標20名
- ・活動期間2022年8月~2023年1月、全11回の活動となり、生徒の自主稽古等も追加することなく、実施することができた。1回あたりの活動時間は2~3時間程度、1ヶ月あたり4時間程度の活動であり、通常の部活動と比較し、生徒・保護者や講師・スタッフの負担も軽減できていると考える。

・子ども達の「生きる力」の育成についても目標を立てており、具体的には、自分の思いや考えを話す力／他者と深く対話し協働する力などのコミュニケーション力／自身で課題を発見し解決に向かおうとする力などの向上を目指していたが、それらについては十分に達成できたと考えている。今回、複数の学校からの参加者で、ほぼ全員が初対面のなか、話し合いながら一つの作品を創り上げた。作品づくりのスタート時にそれぞれ自身の「困っていること」を共有したり、子どもから自発的に「どんな世界であってほしいか／どんな人になりたいか／どんな生き方がしたいか」というメンバーへの投げかけがあったり、多くの深い対話の場があった。アンケート結果の項目でも、この点の達成度について後述する。

●アンケート結果より

・実施期間、回数等について

保護者への質問項目。凌風学園校区としては、おおむね実施形態は問題がなかったと考えられる。他の保護者も同様であったが期間／回数／時間数が、短い／少ないという回答が多少みられた点については、現状の学校部活動との比較か、子どもの表現活動としてか等が測れていないこともあり、この項目に対する保護者の要望・意見をより詳細に聞き取る必要があったと考えている。今回、不要となった自主稽古が発生した可能性も考えると、事業計画段階での設定としては適切であったとも考えられる。

ちなみに、講師のブッキングからみると、日時調整が難航した程であり、期間／回数／時間数すべて今回が最大限だったと捉えている。時間設定についても、午前(10:00~12:00等)もしくは夕方(15:00~17:00)等にすれば、前後のスケジュールが組みやすく各々のアーティスト活動とも兼ねやすいことがわかった。

・自分の思いや考えを話す力

この力については、我々が最も重点をおいたポイントだったが、子どもの自己評価として「自分の意見が言えた」かどうかについては、概ね高い評価結果が得られた。「自分の行動や意見に自信が持てるようになった」についても、同様であった。今後「日常生活で、自分の考えや思いを伝えられそうか」についても、子どもの前向きな評価結果がみられた。

コア連携校の凌風学園の生徒については、ほぼ全ての自己評価項目に5をつけているものの、今後の日常生活での表現への自信については4をつけていた。継続的に今回のような活動機会を提供できれば、サポートできるのではと考えている。

・その他、保護者と子どもと同様に、今後もこのような取り組みをさせたいか／したいかについても前向きな回答がみられ、満足度の高い活動が提供できた結果となった。

●教育的意義に関するヒアリング結果(凌風学園のみ)

コア連携校である、凌風学園からの参加生徒1名については、参加前後での様子の変化についてヒアリングを行った。クラス担任教員からは「10月頃から行動や発言にかなり大きな変化があり、何が理由かと考えたときに、この活動なのではと考えていた。以前はどちらかというとモジモジとしていて控えめな印象だったが、10月頃から美化委員長への立候補や、その選挙での演説の姿のほか、普段もよく喋るようになった印象がある。発表公演を鑑賞させていただいて、やはりこの活動が彼女に勇気を与えていたのだろうと感じた。」と回答があった。

また部活動の地域移行についても同教員に伺ったところ、教員の働き方改革の面では部活動をなくさないで成立しない一方で、部活動と生徒指導の繋がりや、生徒と教員の関係づくりにおける部活動の存在意義への指摘があった。授業や学級活動だけではみられない生徒の姿(あるいは教員の姿)が、良好な関係構築に繋がっているとのことだった。やはり部活動を地域移行していく際に、こうした効果を維持しながら進めるために、直接指導や運営を行う顧問とは異なる教員の関わり方が必要となる。教員との協働を想定し、学校内での活動の展開も重要な検討要素であると考えた。

凌風学園・小西副校長からは、「部活動となると、その教育目的に配慮していくが必要になるが、THEATRE E9 KYOTOの講師やスタッフの皆さんとはその点に即した情報共有や意見交換ができていた。」とのことで、今後の協働への可能性についても言及いただいた。

●近隣中学校との連携について／部活動の地域移行への課題等のヒアリング

これについては、中間報告の通りであるが、学校にとっては「他学校がどのように取り組んでいるか」ということが大きな参考になるため、京都市「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業等の他の連携活動なども活かしながら、各校への情報共有を進めることができればと考える。

○児童・生徒への指導に関する工夫

●複数名の講師によるジャンルの横断は、結果として子どもの様子を多面的に捉えることができたと考えられる。また、コーディネーターは毎回の活動に立ち合い、活動内容を講師に共有し、引き継ぎながら進めることができたので、毎回の表現活動が積み重なり、豊かな作品創作に繋げることができた。

また、個々の芸術経験に影響されないことをねらいとし、学校教育では体験できない内容を重視したが、これにより子ども達の多様な表現がみられた。そして、プロ仕様の劇場、音響・照明という場で成果を発表し、観客の盛大な拍手を浴びる体験は、類い稀な貴重な体験となっている。

●講師やスタッフには教育的知見を備えた人員を配置。同志社女子大非常勤講師でもあるあごうさとし、広く音楽教育活動に携わる葛西友子(大阪音楽大学准教授)、高校でのキャリア教育講演も手がける能政友介、10代との作品創作を行ってきた和田ながら、コーディネーターの松岡咲子(元・大阪音楽大学助手)やリサーチャーの渡辺健一郎も、多数のアートワークショップや芸術教育の現場経験がある。

以上のことから、学校部活動と同等以上の満足度の高さに繋がっていると考える。

●中間報告にも記載したが、活動日には原則、演出家1名／講師1名／コーディネーター1名／リサーチャー1名／劇場事務局2～3名／サポートスタッフ2名というスタッフ体制で行った(発表公演時にはテクニカルスタッフを追加)。メンバーほぼ全員で、子どもと一緒にワークに参加することで、子どもの表現意欲を促すことを目指した。

公教育では現状実現が難しい、各々のペースに合わせていくことや、より一層対等な関係構築にも重きを置いた。講師も子どもも、車座になって話し合う時間を毎回1時間以上設定し、日を追うごとに子どもの発言も増え、話し合いの方法についても子ども達から自発的にアイデアが出るようになった。「自分で自身のことを語る場づくり」が実現している。

サポートスタッフについては、講師・葛西友子の所属先である大阪音楽大学の学生に協力を依頼し、子ども達と少し年齢が近い“おにいさんおねえさん”の存在が、子ども達の積極的なコミュニケーションに繋がったとも考えている。平日夜の会場から駅までの道に同行してもらうなど、運営上の安全面にも繋がった。

○運営上の工夫

●活動場所

アーツシード京都が運営管理している劇場(THEATRE E9 KYOTO)やスタジオ(studio seed box)で行うことで、会場手配がスムーズである。いずれも京都駅から徒歩10～13分程度であり、交通の便も問題がない。また、本番会場で複数回練習が行える環境は、子ども達が伸び伸びと表現できることに繋がっている。対話の場としては劇場は広く独特の緊張感があるため、話しやすいスタジオの方でなるべく行うようにしている。

●保険

保険加入について、年間を通じた包括契約を結んでいるため個別の手続きが不要。

●連絡手段

・講師やスタッフ側ではメールだけでなく、チャットグループを作成し、クイックな連絡や細かい情報共有等を行っている。

毎回の活動内容も共有し、不在の講師に引き継ぐことで、芸術ジャンルを横断しながらも表現面や教育面では重なり合い、一貫性ある内容が実現している。

・保護者や子どもとの連絡はメールを主に活用しているが、メールに不慣れな保護者も見受けられたため、書面での連絡や、活動の送迎時の顔を合わせたコミュニケーションも取り入れるようにしている。LINEでの連絡を可能にすることができれば、スムーズになると考える。参加申込時は、学校での申込用紙や専用フォームなどで受付をした。

●EPAC応援チケット

公演はチケット無料としたが、活動支援を気軽に行える仕組みとして任意で購入できるチケットを設定。金額設定は、10,000円／5,000円／3,000円から選ぶことができる。ここには、作品的価値の提供と享受、活動に対する資金の提供と享受が同時に起こり、サポートする側とされる側の間に豊かな価値の循環を生み出せる可能性がある。

今回、販売目標値には達しなかったが、EPACの活動を支援しただけでなく、作品としての価値に金銭を支払いたいという観客もいたのではないかと観客アンケートから見受けられた。「やりたい人たち」で回していくための仕組みとして、継続しやすい方法だと考えている。

●サポートスタッフからファシリテーターへ

今回のサポートスタッフの大学生はアーティスト(打楽器奏者)を目指す人材であったが、彼らが講師陣の指導方法を実際に体験できたことで、アートワークショップのファシリテーターとしての育成にも繋がったと考えられる。同様の仕組みを京都の芸術大学と協働できれば、実演家／アーティストだけでなく、アートプロデュースやコーディネーターの分野でも、今後の展開に期待できる。

○継続的な運営に関する課題・展望

●参加生徒の募集

中間報告でも述べた、下記の課題について

・日常では体験できない(=子どもたちにとって新しい)芸術体験を、子どもたちや保護者にどのように伝えていくか

・子ども達の挑戦意欲をどのように後押しし、踏み出せる機会を提供するか

これらについては、公募プロセスや実施会場への工夫を考えている。公募前に学校内でワークショップを展開したり、校内で活動することについて、検討していきたい。今年度の取り組みにより、凌風学園と下京中学校については、継続的に議論ができる関係性をつくることができた。これを活かして、多様な文化芸術活動の機会を子ども達に広く提供することができればと考える。

●教員の参加方法と学校内での活動実施

ヒアリング結果の項目でも前述したが、学校部活動と生徒指導との繋がりを突然奪ってしまうことなく進めるために、教員の無理のない参加方法を検討していきたい。校内での活動の展開を調整、またその際の保険や責任所在を明確にし、生徒の様子を共有する仕組みづくりや保護者との連絡手段(ここにはICTの活用が重要)をつくるが必要になってくる。一方で、今回教員や生徒から「他の学校の生徒との交流が刺激となった。」という声も寄せられたため、他学校生の受け入れ可否や、劇場・スタジオ利用を上手く活用しながら全体の活動計画を組まなければならない。

●他団体や自治体との協働

民間小劇場のみで今回のように事業を運営することは、人手・場所・資金等のあらゆるリソースの不足という面でも難しいと考える。学校現場の働き方改革にアプローチし、部活動の地域移行を進めていくという大きな目的に向けて実施していくには、自治体や芸術関係団体との連携以上に、協働が必要かと考える。

京都は舞台芸術が盛んな地域でもあり、京都芸術センター・ロームシアター京都・NPO法人京都舞台芸術協会等との繋がりがあある。例えばこうした団体との協働を目指したい。

また各自治体(府や市の文化芸術担当課や教育委員会等)が、部活動の地域移行についてあまり情報を得ていない印象がある。次年度以降の「文化部活動の地域以降に向けた支援」についても情報を得、つながりある自治体関係者には共有したい。文化庁から各教育委員会への要請がどのようになっているのかについても、把握できると連携がはかりやすい。

●活動財源、会費について

次年度以降の財源調達の見込みが立っていないことが大きな課題である。自治体から補助金等が出るならば、挑戦したい。会費については、家庭環境等に影響されない参加を目指し、徴収していない。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

アーツシード京都としては、部活動の地域移行のみならず多様な文化芸術の機会提供等の面で、近隣中学校との連携は継続して行なっていく。文化部活動の段階的な地域移行について、自治体が運営主体となれば人材や会場提供の面で協働できる可能性がある。今回の事業実施で経験を得た指導者やコーディネーターを派遣し、得られた課題等に継続して取り組んでいくことができる。既存の学校部活動として吹奏楽部が対象となった場合にも、指導実績のある葛西友子を中心に、今回の経験を織り交ぜながら多様な芸術体験プログラムを提供したり、劇場での演奏発表の機会も検討できる。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小学生1名、中学生4名
	学校名	京都市立凌風小中学校、同志社中学校、亀岡市立中学校、亀岡市立小学校
	募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・6月中旬～7月上旬 凌風学園の生徒を対象に公募。募集チラシを配布。申し込み方法は、専用申込フォームとE9事務局への電話申込のほか、学校でも受けられるように申込用紙をチラシと合わせて配布。 ・8月中旬 E9近隣の中学校(九条中学校、下京中学校、東山泉小中学校)の校長もしくは教頭に参加者募集の協力要請。E9のwebページおよびSNSでの公募も開始。 ・8月下旬～9月上旬 参加者追加募集チラシを、凌風学園、九条中学校、下京中学校、東山泉小中学校に配布。申込方法は、専用申込フォームとE9事務局への電話申込のみ。
指導者	人数等	講師4名(内1名、当団体代表理事)、サポートスタッフ2名、
	募集方法	団体の指名による依頼
参加者の移手段		公共交通機関(電車、バス)、車(保護者による送迎)
活動費用	指導者謝金等	講師謝金1時間5100円 のべ173200円
	その他	会議出席費1回14000円 のべ112000円 調査謝金及び調査者会議出席 104000円 サポートスタッフ謝金2名 10000円

活動財源	会費	保護者負担経費なし
	その他	・文化庁地域文化倶楽部(仮)創設支援事業補助金 およそ1,500,000円。 ・E9パフォーミングアーツクラブ応援チケット 5000円×3枚、3000円×3枚、合計24,000円。
スケジュール	基本活動	12月の発表公演に向けて、9～11月のうち月2回(平日は19:00～21:00、土日祝日は14:00～16:00)
	年間	<p>6月下旬～7月上旬 参加者公募 7月16日(土) 実演つき説明会@凌風学園 ※申込が無かったため中止 ▷8月9日(火) 第1回プロジェクト運営検討会議</p> <p>●夏の特別ワークショップ(体験会)実施 8月9日(火)13:00～17:30 講師:あごうさとし、葛西友子、能政夕介、和田ながら/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>8月中旬～9月上旬 参加者追加公募</p> <p>●活動① 8月29日(月) 19:00～21:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動② 9月23日(金・祝) 14:00～16:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、和田ながら/会場:studio seed box</p> <p>●活動③ 10月13日(木) 19:00～21:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、能政夕介/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動④ 10月22日(土) 14:00～16:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、葛西友子/会場:studio seed box</p> <p>▷10月26日(水) 第2回プロジェクト運営検討会議</p> <p>●活動⑤ 11月5日(土)14:00～16:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、葛西友子/会場:studio seed box</p> <p>●活動⑥ 11月14日(月) 19:00～21:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、能政夕介/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動⑦ 11月26日(土) 14:00～16:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、葛西友子/会場:studio seed box</p> <p>▷12月5日(月) 第3回プロジェクト運営検討会議</p>
		<p>●活動⑧ 12月5日(月) 18:00～21:00 リハーサル/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動⑨ 12月6日(火) 18:00～21:00 リハーサル/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動⑩ 12月7日(水) 公演本番日/19:30開演/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動⑪ 1月14日(土)16:00～18:30 ふりかえりの会/会場:THEATRE E9 KYOTO</p>
保険加入等		法人で年間に入っている包括保険があるため個別の契約は無い

【活動の様子（写真添付）】

